

(第1回 最終) 契約変更の内容

契 約 変 更 年 月 日	令和8年1月29日
契 約 業 者 名	株式会社新日本技術コンサルタント
契 約 業 者 の 住 所	鹿児島県鹿児島市田上八丁目24番21号
業 務 の 名 称	令和7年度唐津港港湾施設改良手法設計業務
業 務 場 所	佐賀県唐津市東港地区
業 種 区 分	建設コンサルタント等業務
業 務 概 要 (変更した内容について記述する)	別紙のとおり
履 行 期 間 (自)	令和7年8月7日
履 行 期 間 (至)	令和8年3月19日
変 更 前 の 契 約 金 額	24,981,000 円 (税込み)
変 更 金 額	+1,045,000 円 (税込み)
変 更 後 の 契 約 金 額	26,026,000 円 (税込み)
変 更 理 由	1、沖波の推算の追加 最新の風データを使用した沖波を使用するため沖波の推算を追加した。 2、港外波浪変形計算(エネルギー平衡方程式)のケース数の変更 検討の結果、2周期で計算することとしたためケース数を変更した。 3、現況・計画港形波浪変形計算(ブシネクスモデル)のケース数の変更 検討の結果、波向き及び周期を見直すこととしたためケース数を変更した。 4、対策港形の波浪変形計算(ブシネクスモデル)のケース数の減 静穏度検討の結果、対策港型の検討が不要となったため波浪変形計算も不要とした。 5、土質資料整理解析の追加 概略設計にあたり、既存の土質調査結果の整理解析が必要となったため追加した。 6、設計検討(既設防波堤における気候変動適応策の検討)のケース数変更 既存防波堤の構造毎に検討する必要が生じたためケース数を変更した。

別紙

業 務 名 称	業 務 内 容	単 位	数 量	摘 要
現況調査 測量 健全度調査 健全度評価	原契約のとおり			
静穏度検討				
計画準備				
資料収集・整理				
現地踏査	データの推計 波浪の頻度分布表作成 計算の実施 計算結果の整理	式	1	
沖波の推計		式	1	
港外波浪変形計算 (エネルギー平衡方程式)		ケース	12	6波向×1波高×2周期
		ケース	12	6波向×1波高×2周期
現況・計画港形の波浪変形計算 (ブシネスクモデル)	計算モデルの作成	ケース	14	【通常時】 2港形×2波向×2周期 【異常時】 2港形×3波向×1周期
	計算の実施	ケース	14	【通常時】 2港形×2波向×2周期 ×1波高×1潮位 【異常時】 2港形×3波向×1周期 ×1波高×1潮位
	計算結果の整理	ケース	14	【通常時】 2港形×2波向×2周期 ×1波高×1潮位 【異常時】 2港形×3波向×1周期 ×1波高×1潮位
対策港形の波浪変形計算 (ブシネスクモデル)	対策港形の立案	式	0	
	計算条件の設定	式	0	
	計算モデルの修正	ケース	0	
	計算の実施	ケース	0	
	計算結果の整理	ケース	0	
概略設計	原契約のとおり			
設計計画				
資料収集・整理				
設計条件				
土質資料整理解析	土質資料整理解析	地点	1	
設計検討 (既設防波堤における気候 変動適応策の検討)	安定性の照査（現況断面を対象） 変動状態の安定性の照査	ケース	2	【ケーソン区間】 1工区×1構造 【セルラーブロック 区間】 1工区×1構造 ※2パターン(現在・将来 (上位)2090年
	対策断面の比較構造形式の抽出	ケース	2	【ケーソン区間】 1工区×1構造 【セルラーブロック 区間】 1工区×1構造
	対策断面の安定性の照査 変動状態の安定性の照査	ケース	2	【ケーソン区間】 1工区×1構造 【セルラーブロック 区間】 1工区×1構造 ※1パターン(将来(上 位)2090年
	構造形式の選定及び構造諸元の決定	ケース	0	
	構造諸元の決定	ケース	2	【ケーソン区間】 1工区×1構造形式 【セルラーブロック 区間】 1工区×1構造形式
図面作成 資料作成補助 資料作成	原契約のとおり			
協議・報告				
照 査				
成果物				